vol.410
農政連情報誌

みどりの風

2024
3
令和6年

今月の表紙「散水凍結法の茶畑」（撮影：米田　順子 様）　第11回 未来に伝えたい農業・農村の風景フォトコンテスト入選作品

CONTENTS

■JA熊本県女性組織協議会70周年記念大会を開催
■坂本哲志衆議院議員が農林水産大臣に就任
■写真で振り返る『農政活動この一年』
■参議院議員 藤木しんや氏コラム
■参議院議員 山田としお氏コラム
■地域農業のリーダー
■中央会・連合会からのお知らせ

あぜみち

総務省消防庁は、令和5年4月1日現在の消防団の組織概要を公表した。総消防団員数は、約76万3千人（対前年比約2万1千人の減）となり、平成元年には100万人いた団員数もこの35年で約24％も減少した。このままでの団員数の推移を考えると危機的な状況が窺える。消防団という組織に本来求められる活動が維持できなくなってきている。

消防団員の入団者数と退団者数を見ると、退団者数は概ね横ばい傾向にあるが、入団者数が大きく減少している。特に若年層の入団者数が著しい減少となっている。それに伴い消防団員の平均年齢も毎年上昇しており、令和3年で42・5歳となっている。

熊本県の消防団員数は、令和5年で約28、700人、実員数で全国5位、人口10万人当たりでは全国4位の多さとなっている。

消防団の役割は何かと問えば、火災の消火活動と応えるだろうが、最近は、風水害等の災害のための出動は大きく増加しており、特に大規模災害において、消火・応急手当・救助活動はもとより、発災前の早期非難の呼びかけや住民の避難誘導・避難所の運営支援、安否確認のための戸別訪問など、様々な活動に取り組んでいる。

さて、昨年、「第25回全国女性消防操法大会」が東京都で開催され、八代市消防団本部女性隊が昨年に引き続き全国優勝を成し遂げた。これで熊本県勢は第23回大会の人吉市女性消防隊を含め3連覇となった。地域防災力の要として、住民から厚い信頼を得ているのが女性消防隊である。熊本県の女性消防団員数は約900名となっている。

消防団員数の減少要因には、昔は自営業の方が多かったものの、その後の就業形態の変化により、被用者（サラリーマン）である消防団員の増加が顕著になっていることがある。今後は、団員を雇用している企業の一層の理解と協力が欠かせない。さらに団員の処遇改善も重要になってきている。

JA熊本県女性組織協議会70周年記念大会を開催

～第70回熊本県家の光大会が開催される～

JA熊本県女性組織協議会とJA熊本中央会、家の光協会は12月13日、熊本市の熊本城ホールでJA熊本県女性組織協議会70周年記念大会と第70回県家の光大会を開催しました。

この大会は組織活動の活性化と部員意識の高揚を図り、教育文化活動の一層の活性化を目的に開催しています。

開会にあたりJA熊本県女性組織協議会の太田桂子会長は「JA女性部は、地産地消や食農教育、農産加工や直売所活動等にJAと一体となって取り組み、食料・農業の大切さを消費者や次世代を担う子供たちに伝えてきた」と挨拶しました。

また、JA熊本中央会の宮本隆幸会長は「女性の英知と団結力で様々な問題を乗り越え、地道な活動の姿に勇気と元気をいただいて来た」と述べました。

当日は、女性部など関係者約1、400名が参加しました。

▲大会で挨拶を行う太田桂子女性協議会会長

▲最優秀賞を受賞した
JAやつしろの山住久美子さん(左)と
JA菊池の池田徳子さん(右)

組織活動体験発表では、「仲間との絆を次世代につなげよう」と題して発表したJAやつしろの山住久美子さんを、記事活用体験発表では、「私の身近な『家の光』と共に」と題して発表したJA菊池の池田徳子さんをそれぞれ最優秀賞に選びました。

最優秀賞に選ばれた山住久美子さんは、令和6年度九州大会に、池田徳子さんは本年2月に神奈川県で開かれる全国家の光大会に熊本県代表として出場します。

第46回ちゃぐりん読書感想文で優秀賞を受賞した濱口菜乃子さんと松永寿々丸さん（共に長洲町立六栄小学校3年）が作文を朗読しました。

記念講演では、歌手でエッセイストのアグネス・チャン氏が「心に響いた人生50の言葉」と題して、父親から教えられた言葉など実体験を交え話しました。

▲記念大会の様子

【上記以外の表彰者】

・JA熊本中央会表彰

▽「家の光」特別普及JA表彰
菊池地域農業協同組合

▽「家の光」12月号特別運動優績JA表彰
鹿本農業協同組合

▽「ちゃぐりん」8月号特別運動優績JA表彰
上益城農業協同組合
あまくさ農業協同組合

▽生活文化活動普及功労者表彰(個人功労)
JAくま女性部相良支部
永井美佐江氏

▽生活文化活動普及功労者表彰(団体功労)
JA菊池 菊池・菊東女性部有志一同

・家の光協会表彰

▽「家の光」普及功労団体表彰
上益城農業協同組合

▽「地上」普及功労団体表彰
菊池地域農業協同組合

▽「ちゃぐりん」普及功労団体表彰
あまくさ農業協同組合

坂本哲志衆議院議員が農林水産大臣に就任

岸田内閣は12月14日、宮下一郎農林水産大臣ら4人の閣僚を交代し、新たな農林水産大臣に、自民党の坂本哲志衆議院議員が就任しました。

坂本氏は、熊本県大津町出身の73歳。熊本3区で7回の当選を果たしています。

坂本農林水産大臣は首相官邸で「農林水産業にとって非常に重要な局面だ。食料の安定供給ができるような政策を国民に提示し、実践できるようにしたい」と表明しました。

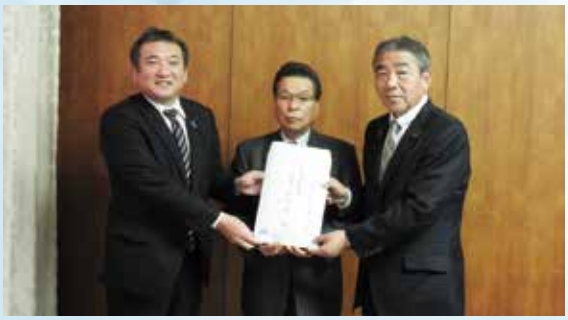
熊本県選出の農林水産大臣が誕生するのは、平成18年の松岡利勝氏以来2人目で、現岸田内閣では、木原稔防衛大臣（衆議院熊本1区）、松村祥史国家公安委員長（参議院熊本選挙区）に加え、3人目の閣僚誕生となりました。

JA熊本中央会の宮本隆幸会長は、「食料安保の強化や農畜産物の適正な価格形成など重要課題が山積みの中、県選出で農政通の坂本氏の農林水産大臣就任は大変心強い」と話しました。

▲認証式を終えた坂本哲志農相(右)ら新大臣と
岸田首相(中央)＝首相官邸で(東京新聞提供)

写真で振り返る「農政活動この1年」

▲蒲島郁夫県知事に令和6年度農業政策・予算確保を求める要望書を提出（R5.12.13）



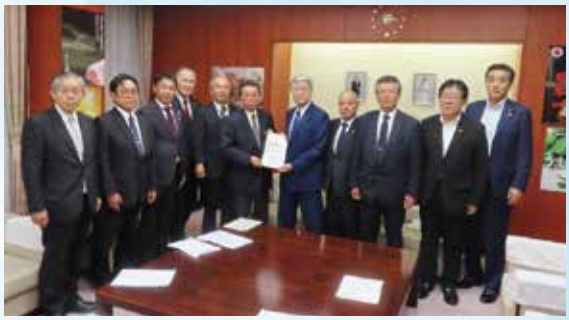
▲熊本県議会へ令和6年度農業政策・予算確保を求める要望書を提出（R5.12.18）

▲前川收自民党県連会長に農畜産物の2024年輸送問題に関する要望書を提出（R5.10.30）

▲県選出の国会議員に畜産・酪農政策に関する要請を行ったJAグループの代表者（R5.11.30）

▲県選出の国会議員に「肉用子牛価格高騰に伴う緊急要請」と「令和6年度農業政策・予算に関する要請」を提出（R5.8.27）

▲第2回農政連委員並びに総支部事務局長合同会議を開催（R5.8.27）



▲野村哲郎農林水産大臣に農業生産資材高騰等に関する要望書を手渡すJAグループの関係者（R5.6.2）

▲6月30日から発生した大雨災害に関する要望書を県（知事）に提出（R5.7.20）

▲第11回未来に伝えたい農業・農村フォトコンテスト受賞作品を県庁で展示（R5.3）

▲4月9日投開票の県議会議員選挙で30名の農政連公認・推薦候補が当選（R5.4）

全国農政連推薦・県農政連公認
参議院議員藤木しんやの
永田町でも百姓宣言

【令和6年能登半島地震】

令和6年能登半島地震によりお亡くなりになった方々に深く哀悼の意を表しますとともに、被災された方々に心からお見舞い申し上げます。また、現地で救援活動に当たる、多くのJA役職員・組合員の皆さまに敬意を表します。

私も組合長時代に熊本地震を経験し、現場の皆さまの抱える不安などがまぶたに浮かび、胸が締め付けられる想いです。昨年6月に農林水産大臣政務官として令和5年奥能登地震の早期営農再開に向けて現地入りした後、このような大震災が発生いたしました。

今回「激甚災害」の指定に加えて、緊急的な物資供給のため約47億円、追加で生活・なりわい再建のため1、000億円規模の予備費支出が政府より示されました。まずは人命第一で、引き続き余震や土砂崩れなどの二次災害に注意して頂きたいと思います。そして、現場を知る者として、1日も早い復興・復旧に向け、しかるべきタイミングに、しかるべき支援が講じられるよう、対応して参ります。

【第213回通常国会について】

1月26日に召集される第213回通常国会では、「食料・農業・農村基本法」を含む6本の法案が農水省から提出される見通しです。また、農水省は令和9年度を目標に、全ての補助事業で環境負荷低減の取組を要件に加える（クロスコンプライアンス）方向であり、今年4月から一部事業でチェックシートの提出や取組内容の報告を試行実施する見込みです。食料安全保障の確立とともに、持続可能な食料システム確立に向けた施策も強化されますが、担い手農業者の皆さまに希望を持って営農を継続していただけるよう、中小・家族経営を含む多様な農業の担い手支援に向けて、取組みを加速させてまいります。

さて、1月の台湾総督選挙にはじまり、3月ロシア大統領選挙、7月パリ五輪の開催、11月のアメリカ大統領選など、本年は国際的に様々な変化が想定されます。農業界にとっても、基本法の見直しというターニングポイントを迎える今、永田町でも、政治集団のあるべき姿について改革が進んでいます。

皆さまの信頼を裏切ることのない政治を、引き続き進めてまいります。

▲1月23日JA九青協農業経営対策研修会にて

全国・県農政連推薦
参議院議員山田としおの
農政問題に斬り込む
石川県の能登地域の震災被害地を訪ねました

ー多くの崩壊した海岸の家々と漁船、そして道路・農地の修復が大変ですー

元日に震度7を記録する令和6年能登半島地震が発生しました。この突然の地震で、家屋も、道路も、田んぼも、大きな被害を受けました。被災されて亡くなられた方にご冥福をお祈りするとともに、被災された皆さまに謹んでお見舞いを申し上げます。

【富山県の実家も被災しました】

私の実家は、隣接の富山県ですが、能登半島の皆さんとは、緊密な交流があり、幼いころから、母親をはじめ、近所の女衆が田植えや稲刈りに活き活きとして出かけていました。

地震は、まさに、私が数日の休暇で故郷に帰った時の出来事でした。そして私の実家も、庭の灯篭が崩れ、庭石がころがっていましたし、蔵の土台の石が崩れて、ぽかっと穴が開き、中のタンスや長持ちが倒れていました。私は上京せざるを得ない日程を抱えていましたので、ともかく、壁の穴から雨が入らないように近所に住む従兄弟にお願いしましたが、それで済むのか心配です。本格的な防水対策が必要なのかもしれません。改めて、皆さんに心配をかけないよう、手当しなければなりません。

【能登の皆さん頑張りましょう】

その後、私は、能登半島の入り口の地域のJAを訪問させていただきましたが、各地で水田の崩れが広がっており、崩壊した漁家も多くあり、多くの被害がうかがえました。早急な、復興が進むことを、お願いしてきました。

加賀、能登の地域は、稲作を中心に、大きな生産力を備えた地域であり、我が国の主食たるコメの安定生産と供給の地域です。農林水産業の復旧なくして能登地域の復興はないのであり、農地や農業水利施設、共同利用施設の復旧を急ぎ、少しでも多くの地域で、何とか春の作付けに間に合うことを祈ります。あわせて、JAを中心とする協同の取り組みと、国・政府の取り組みの強化をお願いするところです。頑張りましょう。

▲宮崎農民連盟の皆さんと

地域農業のリーダー

～ＪＡ本渡五和青壮年部活動報告～

ＪＡ本渡五和青壮年部は、９支部・盟友１１５名で吉田進一郎部長を中心に組織拡充の強化活動、地域農業の振興を図る活動を大きな柱として様々な活動を行っています。

基本農政研修会・球技大会

青壮年部・女性部主催で講演会と球技大会を行っております。

４年ぶりに通常開催となった令和５年度基本農政研修会はＪＡ役職員・青壮年部・女性部約１９０名が参加しました。東海大学農学部　永井竜児教授を招き、「楽しく簡単にアンチエイジング」と題した講演では「現代は昔に比べ、見た目や味にこだわる事で食べやすくなる一方で旬の野菜の栄養素が取りにくくなっており、昔の農法や地産地消の大切さを実感します」と話されました。この他、子供の頃からの生活習慣が与える影響の大きさと食育の重要性について参加者は熱心に耳を傾けていました。

▲令和5年度基本農政研修会の様子

また、終了後は部員同士の親睦を深めるため、ボウリング大会を開催しました。部員や職員70名が各支部に分かれて大盛況の大会となりました。

▲大盛況だったボウリング大会

アグリフェスタ

４年ぶりに開催された「ＪＡ本渡五和アグリフェスタ」にて青壮年部の味自慢コーナーを開設して各支部で屋台を出店し、消費者へ地産地消・食の安全・安心をアピールしています。

また、ステージイベント終了後には餅投げや子供たちへポン菓子の配布を行い米の消費拡大ＰＲを行いました。

▲味自慢コーナーでフライドポテトを販売

新米キャンペーン

青壮年部・女性部合同で８月24日に新米キャンペーンを行いました。

グリーントップ本渡の店頭で天草産コシヒカリ２合（２００袋）とエコバッグ、空き缶・ビン投げ捨て防止のチラシを来店者へ配布し、地元産の新米のアピールを行いました。

天草地区は県下でもいち早く新米を収穫できることから天草郡市青壮年部・女性部の合同イベントとしてキャンペーンを行い地域住民に米の消費拡大を呼び掛けています。

同日、ＪＡあまくさ・ＪＡれいほくも含めた３ＪＡに分かれて同時に新米が配布されました。

▲新米キャンペーンを実施

天草郡市青壮年部と女性部の集い＆家の光大会の開催

９月22日に天草地区ＪＡ青壮年部と女性部の集い＆家の光大会が開催されました。

ＪＡ本渡五和青壮年部では「羽ばたけ未来へ！新天草農業始動！」と題してドローンで撮影した映像を基に１分間動画を作成しました。

また、同作品を10月24日に開催された「ＪＡ熊本県青壮年部大会～家の光大会～」へ出展しました。

▲１分間動画を作成し県大会へ出展

支部活動

青壮年部各支部では地域貢献の一環として各地区のふるさと祭りなどへ参加や環境保全活動としてゴミ拾いなどの清掃活動も行っており地域の皆様から喜びの声を頂いています。

今後も地域農業の担い手としての役割を果たしていきます。

▲手作り看板

JA中央会

物価高騰等に供う学生への県産農産物・加工品の配布を実施

～地産地消・国消国産、我が国の食料安全保障の大切さを伝える～

JAグループ熊本は1月16～18日の三日間、物価高騰などで厳しい日常生活を送る学生を支援しようと熊本県立大学（熊本市）の学生に、県産農産物・加工品を無料配布しました。県産の果物などが配布されると、学生からは「食べる機会がなく、助かる」との声が挙がりました。

学生への食料品などの配布は、同大学が令和3年度から実施しているもので、今回、初めてJAグループ熊本も提供しました。同大学では保護者などの協力もあり、独自にレトルト食品や米、日用品などの無料配布がなされています。今年度だけでも無料配布は6回目。

JAグループ熊本からは、イチゴ100パック、デコポン250個、ミニトマト250パック、「ジューシーみかん100%」250個などを提供しました。

配布は大学で行われ、多くの学生が訪れていました。配布の対象は自宅外から通う学生らで、294人が受け取りを希望しました。環境共生学部4年の林愛里沙さんは「ひとり暮らしなので助かる。自分で果物などを買う機会はなく、ありがたい」と話しました。

JAグループ熊本は、これから社会に出て地域社会・経済の担い手となる大学生に、熊本県産農産物の素晴らしさ、地産地消、国消国産、食料安全保障の大切さとともに、「職場としてのJAの魅力」を訴求する活動を今後も展開していきます。

▲提供した県産農産物・加工品

▲うれしそうに農産物・加工品を見つめる学生たち

JA経済連

第48回JA植木まつり開催しました

JA熊本経済連と県内JAは、1月27日から2月26日の期間、熊本県農業公園カントリーパークで「第48回JA植木まつり」を開催しました。

同イベントは、熊本に一足早い春の訪れを告げるもので、今年のテーマは「春の息吹と大地の香り」。県内農家が生産した良質で低価格な庭園用樹木や庭園、特産物を直売する人気のイベントです。消費者とのふれあいの場を提供することで、緑化木事業とJAによる特産品づくりの振興、発展を目指しています。

1月27日の開会式で同連の丁道夫代表理事会長は「お客様の満足度向上を最優先に、生産者と消費者のふれあいの場を提供し、農業の果たす重要な役割をPRしていきたい」とあいさつしました。

初日から、開幕を待ちわびていた多くの来場者で賑わいました。

コロナ5類移行に伴い、4年ぶりにフラワーアレンジメント教室などの体験教室も復活。また、県産農畜産物をPRするイベントや賞品が当たるスタンプラリーなども実施しました。

▲開会式テープカットの様子

▲経済連茶業センターのブースには多くのファンの列

▲にぎわう場内

JA共済連

地震に備える

～地震から命と生活を守るために～

このたび、令和6年能登半島地震によって被災された皆さまに、謹んでお見舞い申しあげます。一日も早い復旧・復興と皆さまの健康を心よりお祈り申し上げます。

今年1月1日に石川県能登地方を震源として最大震度7の地震が発生し、建物の倒壊や火災など各地に大きな被をもたらしました。

JA共済では、被災された組合員・利用者・契約者の皆さまの早期の生活再建に向け、被災県域だけでなく、全国から100名規模で損害査定員を動員し、総力をあげて損害調査・共済金のお支払いを行っています。

またこのような大きな自然災害は、私たちの生活を一変させてしまいます。大地震に遭遇した際に少しでも落ち着いて対処ができるよう、備えは万全にしておくことが大切です。

JA共済では、万一に備える仕組みとして、建物更生共済を準備しています。ご検討ください。

～JA共済の建物更生共済「むてきプラス」のポイント～

①火災はもちろん、台風や地震などの自然災害もしっかり保障します。

②火災や自然災害によるケガにも備えることができます。

③掛捨てではなく、保障期間満了時に満期共済金を受取ることができます。

さらに、生活を営む上で大切な家財の保障「My家財プラス」もおすすめです。

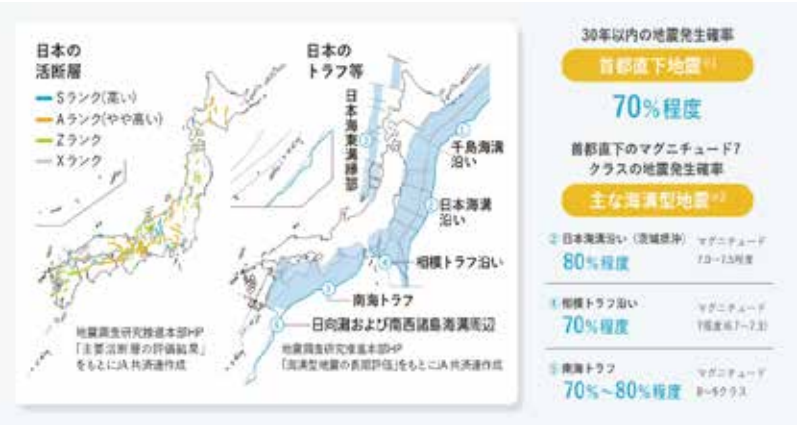
詳しくはお近くのJA窓口もしくはJA共済のホームページをご確認ください。

JA共済ホームページ
URL:https://www.ja-kyosai.or.jp

建物更生共済 むてきプラス

建物更生共済 My家財プラス

■ JA共済防災サイトより（JA共済HP）



農政連

TACパワーアップ大会2023が開催される

JA全農は、11月に横浜市でTACパワーアップ大会を開催しました。今回で16回目となる大会には、全国からオンライン参加も含め450人超が参加しました。

TACとは地域農業の担い手に出向くJA担当者の全国統一名称です。全国には約1、500人のTACが活動しており、約57、000人の農業経営者を日々訪問し、農業経営に関するあらゆる相談に応えています。

大会は、地域農業振興・担い手経営支援の要となるTAC活動の日頃の成果を共有し、TACのモチベーションの向上とさらなるレベルアップ、JA事業の質向上につなげることを目的に開催しています。

大会開催にあたり全農経営管理委員会の折原敬一会長は「担い手のニーズや課題に向き合い、創意工夫ある事例が多数あり、担い手と強固な信頼関係を築き、多くの困難を乗り越えてきたと推察する。TAC活動の尽力に改めて感謝する」と現場の努力を称えました。

大会では、4つのJAと地域農業の担い手に出向くJA担当者（TAC）9人を表彰しました。JA部門の**TACトップランナーズJA表彰にはJA阿蘇**が選ばれました。TAC個人部門の**地区別優秀賞表彰ではJA本渡五和の山下清弥氏**が受賞しました。山下さんは、地域の結束力・運営力の弱体化という共通課題を持つ8つの集落営農組織に経営分析を提案し、経営的・環境的に持続可能な営農組合の構築に向けた関係機関との連携強化に取り組んだことを発表しました。

▲JA本渡五和の山下清弥さん

▲JA阿蘇の原山寅雄組合長（右）

シロアリ防除はJAへ

早期発見・対策が住まいを守ります

シロアリ対策はお済みですか？

JAでは年間を通して床下無料調査を実施中

無料で床下点検・点検結果の報告を行い、組合員様にあった防除をお勧めしております。
その後、組合員様から申し込みがありましたら、JA取扱業者が防除（有償にて）を行います。

気になる事があればすぐJAへお電話を

- □床がブカブカする場所がある
- □羽アリを近所で見たことがある
- □押入、収納庫がカビ臭い
- □柱をたたくと空洞音がする
- □家の周囲に木材を置いている
- □床下の湿気が気になる

お申込み・お問い合わせはお近くのJA(農協)へ

もしものためのおまもりです。

JA共済では、被災された組合員・利用者・契約者の皆さまの早期の生活再建に向け、被災県域だけでなく、全国から損害査定員を動員し、総力をあげて損害調査・共済金のお支払いを行ってまいります。

「共済」は「助け合い」。地震などの自然災害が多発するなか、真価が発揮されています。

平成23年3月 東日本大震災	【共済金支払】684,734件 9,376億円 うち家財 97,076件 1,030億円	平成28年4月 熊本地震	【共済金支払】94,195件 1,487億円 うち家財 11,519件 122億円
令和4年3月 福島県沖地震	【共済金支払】※181,276件 1,508億円 うち家財 52,025件 269億円		

令和4年3月末時点(※は令和4年12月末時点)JA共済連調べ

建物更生共済 むてきプラス　建物更生共済 My家財プラス

※ご加入にあたりましては、お近くのJAへお問い合わせください。どなたでもご相談いただけます。

はじめて共済
https://shiryo.ja-kyosai.or.jp
■JA共済ホームページ https://www.ja-kyosai.or.jp
本サイトから「ひと・いえ・くるま」の各共済の資料請求・掛金試算ができます。

JA共済相談受付センター(JA共済連 全国本部)
0120-536-093
受付時間: 9:00~18:00(月~金) 9:00~17:00(土)
※日曜日、祝日および12月29日~1月3日を除きます。
※メンテナンス等により予告なく変更する場合があります。
※電話番号は、おかけ間違いのないようご注意ください。

くらしの保障、相談するなら JA共済

JA熊本市 ☎096-372-6879	JA鹿本 ☎0968-41-5133	JAかみましき ☎096-234-5227	JAあしきた ☎0966-82-2352
JAあまくさ ☎0969-22-1103	JAたまな ☎0968-72-5509	JA菊池 ☎0968-23-3510	JA熊本うき ☎0964-34-3372
JAくま ☎0966-38-4062	JAれいほく ☎0969-35-0010	JA大浜 ☎0968-76-2121	JA阿蘇 ☎0967-22-6120
JAやつしろ ☎0965-35-3051	JA本渡五和 ☎0969-23-2231		

23439990271

あとがき

春の足音がそこまで来ています。3月は卒業の時期であり、その後には新しい出会いがまっています。卒業は、それまで生活を共にしてきた友人たちとの別れを意味することが多いため、悲しみとともに語られることが多く、歌でも多く歌われています。

一方で新たな生活のための節目としての意味合いもあります。卒業にまつわる歌はたくさんありますが、主に仲間と別れる悲しみや培ってきた友情が永遠であること、卒業していく先輩への思慕の気持ちなどを卒業していく情景に重ね合わせているものが多いようです。しかし、尾崎豊のように大人への反感を荒々しく歌ったものも未だに人気があるようです。

卒業式のあとに開かれるのが謝恩会です。卒業生や保護者が教職員に対し、感謝の意を伝えるために開催するパーティーのことです。ここには旬の食材が並び、「今」しか味わえないふきのとうや独活、菜の花などがテーブルを彩ります。

「ヤギに見つめられてます」

撮影：重村　昭枝 様
第11回 未来に伝えたい農業・農村の風景
フォトコンテスト入選作品

発行／熊本県農業者政治連盟
熊本市中央区南千反畑町2-3　電話 096-328-1284
編集責任者／中村　隆宏
●発行日／令和6年2月15日・毎月1回15日発行
●定価／1部50円(但し、会員の購読料は会費の中に含む)